

立
命
館
經
濟
學

第七卷
總目次

(昭和三十三年度)

立命館経済学 第七卷総目次 (昭和三十三年度)

論 説

近世丹後縮緬機業地における糸問屋の存在形態	足立政男	一(一)	三五(五)
——丹後国加悦町杉本利右衛門家文書を中心として——			
月別傾向線の当嵌め方法	関 弥三郎	一(四)	七(七)
国民経済と地理的環境	淡 川 康 一	二(二九)	二六(四)
オーウェン主義の生成	松 田 弘 三	二(四五)	六五(八三)
——ニュー・ラナーク実験と工場法運動——			
内職労働者の量的存在に関する調査と推定(上)	坂 寄 俊 雄	二(六八)	八九(一〇七)
——大阪府における実態調査を通じて——			
土佐藩郷土制度の解体過程について(その一)	後 藤 靖	二(一三五)	一九(二六)
G・ミューダールの低発展国開発論	浜 崎 正 規	三(七〇)	六四(三四)
内職労働者の量的存在に関する調査と推定(中)	坂 寄 俊 雄	三(三五)	七(三七)
——大阪府における実態調査を通じて——			
オーウェン主義の成立	松 田 弘 三	三(九五)	三四(四二)
——一八一五年恐慌とロバート・オーウェン——			
近世丹後縮緬機業地帯における商業資本家の存在形態	足 立 政 男	三(四三)	九(四九)
——丹後国加悦町下村五郎助家文書を中心として——			
貨幣取扱資本の成立と発展	小 牧 聖 徳	四(九七)	一(一五)
——近代的銀行業の成立をめぐって——			

内職労働者の量的存在に関する調査と推定(下)……………坂寄俊雄……………一(五三)……………二(四(五六))

——大阪府における実態調査を通じて——

土佐藩郷土制度の解体過程について(その二)……………後藤靖……………三(五七)……………五(〇六二)

近世後期における都市商人……………奥田修三……………五(六三)……………八(六五〇)

——奈良晒市青葙中買について——

『資本論』体系の図式的解明(上)……………梯明秀……………一(七三)……………二(九七四)

J・B・ウィリアムスの「投資価値理論」における株価分析の構造……………住ノ江佐一郎……………三(七五〇)……………五(七三三)

管理における統制機能……………祭原光太郎……………六(五七七)……………七(七九七)

貸借対照表監査と損益計算書監査……………高尾忠男……………六(七九八)……………一〇(八三三)

動学的レオンティエフ・システムとフィード・バック効果……………岡崎不二男……………六(一〇四(八三四))……………一八(八三六)

研究

いわゆる分権的管理組織について……………植村省三……………四(一三(五〇六))……………一五(四五六)

国有企業経営管理機構論序説(その一)……………辻和夫……………五(八九(六五))……………一三(六四四)

——英国公共企業体の研究——

アメリカにおける割賦販売の収益認識理論の発展とその現実的基礎……………桑原幹夫……………五(一三(六九五))……………一七(七九九)

国有企業経営管理機構論序説(その二)……………辻和夫……………六(二九(八三九))……………一五(八五五)

——英国公共企業体の研究——

資料

現代経営の理論的基礎(下)……………植村省三……………一(七三(七三))……………九(六九九)

——その典型としてのドラッカー理論——

幕末の株仲間……………	奥田修三……………	九〇(一〇八)……一〇七(三五)
——京都嵯峨・梅津・桂三ヶ所材木仲間について——		
中国の銀行業と貨幣改革の発展情況……………	武藤守一……………	六(三六)……九(三四)
割賦販売による未実現総利益の貸借対照表 における表示について……………	桑原幹夫……………	三(三五)……一〇八(三五)
ヴェ・パトツィレフ『社会主義のもとでの 商品生産の必然性と本性について』(訳)……………	岡崎栄松……………	四(三五六)……一六六(五二)
近世郷土の存在形態(下)……………	岡本幸雄……………	六(一八五)……一五(八七)
——丹波馬路村「両苗郷土」の経済的基盤と村方支配——		

紹介

W・アダムス、H・Mグレイ『アメリカにおける国家と独占』……………	辻川本和夫……………	一(九七)……二四(二四)
F・ノイマン『ビヒモス』……………	川本和良……………	二(一〇八)……三三(三五)
エ・ベ・ゲンキナ『ソヴェト国家の新経済政策への 移行(一九二一—一九二二年)』……………	岡崎栄松……………	三(一〇九)……一四(九四)

書評

カール・ビュヒアー『国民経済進化論』第二集……………	高橋良三……………	一(二五)……二七(二七)
——淡川康一教授の訳業について——		